

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070600657
法人名	社会福祉法人 ふらて福祉会
事業所名	グループホーム 森の家
所在地	福岡県北九州市八幡東区山路松尾町13-25 (電話) 093-652-6601・6602

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成19年10月18日	評価確定日	平成19年12月25日

【情報提供票より】 (平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年10月1日(1・2ユニット)	平成16年3月1日(3ユニット)
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計 27 人
職員数	24 人	常勤 24人, 非常勤 0人, 常勤換算 5.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3 階建ての 1 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000 円	その他の経費(月額)	22,000 円	
敷金	有( 円)	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	(有) (300,000 円)	有りの場合償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,500 円		

(4) 利用者の概要 (平成19年10月1日現在)

利用者人数	27 名	男性	5 名	女性	22 名
要介護1	6 名	要介護2	10 名		
要介護3	7 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.9 歳	最低	61 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西野病院 白石歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地から少し離れた山の麓に事業所は位置している。母体施設に病院・ケアハウスを併設し、その他老人保健施設や在宅介護サービス部門も近くに点在している。3階建て3ユニットで、敷地内には散歩が出来る広大な緑の多い庭園を持っており、野菜づくりや園芸を目的に入居希望する利用者もいる。日々の生活の中で趣味・得意なこと等残存能力を引き出す働きかけを積極的に行っており、利用者一人ひとりが生き生きと張り合いのある生活が送れるよう支援に力を入れている。他事業所と質を高め合う為の交流も盛んであり、専門誌に事業所の取り組みが紹介されるなど、地域の中でも先進的な事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題については、危険物の取り扱い、介護計画書の見直し、会議録等の整備等、評価を活かして具体的な改善に取り組み、その報告書も作成している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、全職員に自己評価項目の内容を配布し、意見を聴取して集約し、事業所全体で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的開催している。理念の説明から現状報告や外部評価の結果、消防訓練、認知症の正しい知識と理解について等、事業所が取り組んでいる内容を随時報告し、委員からの助言を得てサービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	意見箱やユニット毎及び全体で家族会を設置している。職員は家族来訪時及び家族会開催時に家族等の意見の聴取に努め、日帰り旅行を実施する等、意見等を運営に反映させている。また、定期的に行政の介護相談員を受け入れている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所は町内会に加入している。回覧板で広報紙を回覧し、町内会の清掃や花壇造り等、地域活動や地域行事へ参加し、地域住民が事業所の行事や避難訓練に参加する等、地域住民との交流に積極的に努めている。また、近隣の各種学校との交流や実習生の受入れを行っている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念の中に「地域住民との活動を基本にした認知症高齢者のための地域づくり」とあり、地域密着型の視点が加わっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の送り時や職員会議等の各種会議の際(週1回)に、理念を実践しているか、また実現に向けて取り組んでいるかを話し合っている。		
<b>2. 地域との支え合い</b>					
3	5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は町内会に加入している。回覧板で広報紙を回覧し、町内会の清掃や花壇造り等、地域活動や地域行事へ参加し、地域住民が事業所の行事や避難訓練に参加する等、地域住民との交流に積極的に努めている。また、近隣の各種学校との交流や実習生の受け入れを行っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全職員に自己評価項目の内容を配布し、意見を聴取して集約し、事業所全体で取り組んでいる。また、前回評価での課題については、危険物の取り扱い、介護計画書の見直し、会議録等の整備等、評価を活かして具体的な改善に取り組む、その報告書も作成している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行っている。理念の説明から現状報告や外部評価の結果、消防訓練、認知症の正しい知識と理解について等、事業所が取り組んでいる内容を随時報告し、委員からの助言を得てサービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長は、行政とともに認知症に対する啓発・啓蒙活動に熱心に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は入居時に家族に対して制度に関して説明の機会を設けている。また、職員・家族を対象に人権擁護委員を講師に招き、権利擁護について研修会を実施し、個別相談会を開く等、権利擁護について理解を得る機会を積極的に作っている。制度のパンフレット、研修会等の報告書や写真入記録を事業所で保管している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	3ヶ月に1回、広報紙を発行している。家族の来訪頻度に応じて、利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理について、手紙や交換ノート、口頭での報告等、様々な手法で個々に合わせた報告を行っている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱やユニット毎及び全体で家族会を設置している。職員は家族来訪時及び家族会開催時に家族等の意見の聴取に努め、日帰り旅行を実施する等、意見等を運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の悩みを聴いたり、職員間のコミュニケーションを十分に図る等し、異動や離職を抑える努力をしている。また園芸・手芸等を通じて各ユニット合同企画による取り組みにより、ユニット間の交流を深め、職員異動の際には他ユニット職員が協力しあう体制を整えている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員募集・採用については、性別や年齢等を理由とすることはない。また、事業所は、自己実現のために職員が望む資格取得等の支援をして、職員個人の能力が発揮でき、安心して働ける職場環境を目指している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>全職員は人権研修を受講している。また、利用者に対する人権に関して、年2回、職員自身が利用者に対して人権の尊重ができていないか等、自己評価するシステムをとり、事業所全体で人権教育の問題に取り組んでいる。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各ユニットのリーダーは、職員研修の年間計画を立案し、職員が段階に応じて研修を受けられるよう、計画的に取り組んでいる。研修を受けた職員は、その都度内容報告を行っている。また、年2回、職員自身が自己評価を行い、自分の介護技術等を管理者と共に振り返り、意識の向上の機会としている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>全国グループホーム協議会、県グループホーム協議会に加入している。月1回、県グループホーム協議会北九州ブロックによる研修会への参加や年1回の報告会等を行い、それを通して、相互に事業所行事へ参加する等、同業者との交流の機会を持っている。</p>		
<b>【II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>職員は、利用開始前に家庭訪問する等し、家族等と十分な話し合って状況把握に努めている。また、一日体験・宿泊体験を行う等して、本人が安心して納得の上でサービス利用ができるように工夫している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>料理、生け花、お茶、着付け等、利用者一人ひとりの得意分野が発揮できるよう、生活の中で場面作りをさりげなく行い、職員は利用者から、それぞれの技や文化を学びながら支援し、共に支え合う関係を築いている。</p>		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>認知症のアセスメントシートを活用して、生活歴や趣味・嗜好や本人・家族の思いや意向の把握に努め、本人本位に検討している。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居の際に、本人、家族からアセスメントを行い、本人の思いや家族の意向等を聴取し、個別具体的な介護計画を作成している。また、担当者以外の職員の意見も聴取して話し合い、計画に反映している。作成した介護計画書は、本人家族から了承の署名・押印をもらっている。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回、介護計画の見直しを行っている。また利用者の状況の変化等に応じて、介護計画の見直しを行っている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>通院は家族同行を基本としているが、状況に応じて職員が代行する等、柔軟に対応している。利用者が入院した際は、職員が医療機関・家族と協議を行い、早期退院に向けての支援を行っている。また、事業所は訪問看護事業所の看護師との連携に努めており、利用者の入院回避及び重度化への対応を図っている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始前からの馴染みのあるかかりつけ医での受診を支援している。また、かかりつけ医が特にない場合は、隣接する併設の医療機関及び協力医療機関を紹介し、本人及び家族等の意思を確認した上で受診支援を行っている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化についての指針の説明文書を配布し、家族としての意向を「意向確認書」にて確認している。また、終末医療の事例等の研修会に家族の参加を促し、かかりつけ医を含めて方針の共有に努めている。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員は個人情報の取り扱いやプライバシーについての研修を受講し、周知している。年2回、職員自身が利用者に対して人権の尊重ができているか等、自己評価し、意識向上を図っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりのペースやその日その日の希望する過ごし方等、利用者の状態や思いの把握に努め、希望にそって支援している。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は、季節の野菜を菜園で一緒に育て収穫し、献立作りから調理・配膳・食事・片付けまでの一連の流れを、利用者の能力や得意分野に応じて役割分担を行っている。また、食事は同じテーブルで、家庭的な雰囲気の中で共に楽しみながら食している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯は、個人の要望に合わせ、一人ひとりが入浴を楽しめるよう支援している。入浴拒否がある場合には、場面転換や個別の対応で臨機応変に支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や趣味・得意なこと等の把握に努め、日々の生活の中で、油絵・園芸・畑仕事・お茶・生け花・料理・和裁等の得意分野を発揮する場面を作っている。また、創作活動や学習活動等の活動を通して、利用者が生き生きと張り合いのある生活が送れるよう、楽しみごとの支援を行っている。		
28	63	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所敷地内には広大な散歩コースがあり、天気や利用者の体調、希望に応じて、毎日2回散歩を行っている。また、利用者の要望に応じて、週に3～4回の買い物や月2回の外食等、日常的に外出支援を行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室及び玄関は施錠していない。併設施設の職員に見守りの協力依頼を行うとともに、近隣住民やタクシー会社に対しても理解を働きかけている。玄関には、人の出入りを知らせるチャイムを設置している。		
30	73	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者を置き、消防計画及び災害時のマニュアルを作成している。年2回、消防署及び近隣住民と共に避難訓練を実施し、日頃から地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。また、母体法人の病院には、災害時用の飲料水や食料、備品を準備している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食委員会を設置している。献立は、栄養士の助言を受けながら作成している。食事摂取量は全利用者分の記録があるが、水分摂取量の記録については、一部利用者のみ記録している。	○	一人ひとりの水分摂取量について、大まかに把握してほしい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、利用者の作品や生け花等を季節に応じて飾り、家庭的な雰囲気に配慮している。また無意味にテレビをつけたままにすることもなく、静かで落ち着いた雰囲気である。不快と感じる音や光はない。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みの家具・装飾品・家族写真や仏壇等を持ち込み、利用者が安心して、落ち着いて過ごせるような工夫をしている。		

※      は、重点項目。